

謝辞

情報提供いただきました須河隆夫氏に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- Arimoto, I., Goto, Y., Nagai, C. and Furubayashi, K. 2011. Autumn food habits and home-range elevations of Japanese black bears in relation to hard mast production in the beech family in Toyama Prefecture. *Mammal Study*. 36 : 199-208.
- 後藤優介・南部久男. 2009 a. 余川川流域(富山県氷見市)におけるツキノワグマの痕跡調査. *富山の生物*. 48 : 49-50.
- 後藤優介・南部久男. 2009 b. ツキノワグマによる採食痕跡の記録(魚津市角川・富山市大長谷). *富山の生物*. 48 : 97-100.
- 後藤優介・南部久男・河野勇希・河野芳美. 2010. 析津川におけるツキノワグマの採食痕跡及び哺乳類の記録. *富山の生物*. 49 : 37-40.
- 後藤優介・南部久男. 2011 a. 渋江川流域におけるツキノワグマの採食痕跡. *富山の生物*. 50 : 43-46.
- 後藤優介・南部久男. 2011 b. 富山県の小河川流域におけるツキノワグマによる樹木への採食痕跡. *富山の生物*. 50 : 97-102.
- 後藤優介・南部久男. 2012. 舟川におけるツキノ

ワグマの採食痕跡. *富山の生物*. 51 : 41-44.

南部久男. 2007. 富山市におけるツキノワグマの出没記録(2005・2006年). 富山市科学文化センター研究報告. 30 : 109-126.

南部久男. 2011. 富山市におけるツキノワグマの出没記録(2010年). 富山市科学博物館研究報告. 34 : 177-192.

自然環境研究センター. 2005. ツキノワグマの大量出没に関する調査報告書(平成16年度ツキノワグマ個体群動態等調査事業), 115pp. 自然環境研究センター.

富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク(JBN). 2005. 富山県における2004年のツキノワグマの出没状況調査報告, 112pp. +CD-ROM. 富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク(JBN), 富山.

富山県. 2010 a. 平成22年富山県ツキノワグマ出没注意情報(第1報). <http://www.pref.toyama.jp/branches/1633/right/220908kumatyuijoho.pdf>

富山県. 2010 b. ツキノワグマ出没情報地図「クマっぶ」http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00008543.html

富山県生活環境文化部自然保護課. 2007. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定指針(ガイドライン), 93pp. 富山県生活環境文化部自然保護課, 富山.

Essay

早百合姫血の涙伝説顛末記

大野 豊

〒939-0363 富山県射水市中太閤山3-43

Detailed report on the legend of Sayurihime's bloody tears

Yutaka Ohno

Nakataikouyama 3-43, Imizu-shi, Toyama 939-0363, Japan

富山市護国神社裏の神通川堤防には大きな榎がある。その一本榎には富山藩主佐々成政の愛妻早百合姫の伝説が残っている。1584年(天正12年)佐々成政は雪の立山ザラ峠越えを決行し、遠州の徳川家康に救援を求めに行くも空しく、帰郷したら早百合姫の不義密通の噂に激怒した。成政は早百合姫を大榎に吊るし、鯨切りにして成敗したとされる。

早百合姫は成政を恨み、死に際に血の涙を流しながら「立山に黒百合が咲いたら佐々家は滅びるだろう」と息絶えた。その一本榎には初夏になると赤い液体が滴り落ちるのが見られた。村人はそれを「早百合姫の恨みの血の涙」だと恐れた。富山市の作家遠藤和子さんは『物語・佐々成政』(1982年)などでその後の領主前田家は政略的に佐々成政を悪領主とするために悪い風評を氾濫させたとしている。



図1 ヒオドシチョウ

タテハチョウ科のヒオドシチョウ(*Nymphalis xanthomelas*)は榎を食樹とし、6月頃の初夏に

羽化する。サナギから脱出する時、流出する液体は鮮血のように真っ赤である。

ファーブルの昆虫記第十二分冊(1931)(岩波文庫)には「子供たちを呼んだ。〜一羽の蝶は大きな赤い雫を落とした。ポタリ!と。今日はもう楽しいどころではなかった。それは薄気味が悪いと言ってよい不安だった。……美しい蝶が時々、田舎の人を驚かせる血の雨の原因です」がある。また、小西正泰(1977)『虫の文化誌』では「ヒオドシチョウが一度にたくさん羽化すると「血の雨」が降ると大騒ぎになる。1296年ヨーロッパのフラクフルトでは、この赤い血の雨が降ったばかりに、なんの罪もないユダヤ人が1万人も虐殺された」とある。

1988年筆者はヒオドシチョウのサナギから羽化した時に流れた液体を和紙に受けたものを持って遠藤和子さん宅を訪問した。早百合姫伝説のある一本榎の根元で見られた赤い液体を村人が見て「早百合姫の血の涙だ」と思ったと思われると説明した。その時の様子は北日本新聞の取材を受け記事になっている。新聞の写真では遠藤さんは62歳、筆者は48歳と若く今から24年前のことである。遠藤さんはその後、各地の講演の際、差し上げたヒオドシチョウの標本と赤い体液の付いた和紙を持参して紹介されておられた。

筆者は「早百合姫伝説とヒオドシチョウ」(1988)『富山の動物』植木忠夫先生米寿記念誌など幾つかの会誌に雑文を書いた。江戸時代に出版された『絵本太閤記』の「成政神通川にて愛妻を殺す図」では榎ではなく柳になっている。それは

幽霊は柳に出現するという通念に従ったのであろうとされている。しかし、ヒオドシチョウは主に榎を食樹としているが各種の柳も食樹とする。柳からは血の涙が降り、幽霊も出るのである。『絵本太閤記』の著者はそれを知っていたのであろうか？

それまで早百合姫伝説の血の涙とヒオドシチョウの赤い体液の関わりを記述されたものは筆者が雑文で書いたもの以外は存在しなかった。しかし、最近、遠藤和子さんは『佐々成政』人物文庫(学陽書房)(2010)のあとがきに『成政が寵愛した早百合姫を惨殺したという一本榎。初夏になると、榎の木からから滴り落ちる血は「早百合姫伝説の恨みの血の涙」として恐れられた。だが、近年蝶研究家、大野豊氏によって、血の涙の正体が解明された。榎を食樹(葉や樹液)としている「ヒオドシチョウ(緋緘蝶)がサナギから脱皮して羽化する際、排出する体内の廃液(血と同色)なのである」と記述されている。

また、筆者の長年の蝶友で、長野県須坂市在住の今井彰氏は蝶と民俗学に関かわる多くの著作がある方で、自宅土蔵を「蝶の民俗館」として公開されておられる。『一蝶百楽』(2008)で私から聞いた話として「早百合姫の血の涙」を紹介されている。

神通川堤防磯辺の一本榎には市が設置した看板がある。それに隣接して須田徳治氏宅にも大榎があり、その脇の祠に「早百合姫観音」が祀られている。しかし、それらの案内板には「早百合姫の血の涙」の記述がない。富山市商工労働観光課からのパンフレット「戦国の武将佐々成政を歩く」(富山歴史探訪)がある。今後、看板やリーフレットに「早百合姫の血の涙」の話を付け加え市民に知って貰いたいと思っている。

兵庫県の姫路城には播州皿屋敷の物語がある。腰元のお菊さんは殿様の大切な皿を割ったと怒りに触れて惨殺され、城内の井戸に投げ込まれた。その井戸は現在も姫路城内にある。その井戸の縁にはアゲハチョウ科のジャコウアゲハ(*Atrophaneura alcinous*)のサナギが貼りついてた。それはお菊さんが裸で縛られる様子だと

して「お菊虫」と呼ばれた。市内の「お菊神社」の縁日ではジャコウアゲハのサナギが「お菊虫」として売られていた。この程度のことは昔から知っていたが最近、『ジャコウアゲハ(お菊虫)と播州皿屋敷の民俗文化誌(2009)(姫路市市蝶制定20周年記念)を入手し、ジャコウアゲハが姫路市の市蝶となっていることを知った。姫路市は市制百周年を記念して平成元年にジャコウアゲハを市蝶とした。2010年11月11日に市蝶制定に関わった相坂耕作氏を姫路市に訪ねた。



図2 ジャコウアゲハ

市内には播州皿屋敷に関わる「お菊神社」があり、橋の欄干や各種のリーフレットにはジャコウアゲハがデザインされており、姫路市民には知名度があるようだ。筆者はその様子からヒオドシチョウを富山市の「市の蝶」にしたらと考えた。最初に遠藤和子さんと相談したが姫路市のお菊虫のイメージは湧かないようであった。

2010年富山市科学博物館「友の会」役員会の席上、ヒオドシチョウを富山市の市蝶に制定することを「友の会」の活動として取り組むことを提案した。この友の会の役員会はいつも博物館からの案内ばかりで喋る人はいつも喋り、多くはシーンとした例会であった。その席上、昆虫が専門であるJ氏は「その活動は大野さんが一人でやれば良い。この会で取り組むには相応しくない」と発言があった。J氏の発言をそれまで役員会の席上一度も聞いたことがなかったので驚いた。そのJ氏の意見に対して他の出席者から他の意見も出なかった。筆者はそれ以上発言を続ける気にはならなかった。そして長年取り組んだ「早百合姫血の涙

伝説」を続ける気力が失せた。また、「友の会」の役員も辞退した。

最近、リチャード・フォーティ著『乾燥標本収蔵1号室』副題「大英自然史博物館迷宮への招待」(2011年NHK出版刊)を読んだ。リチャード・フォーティ氏の著作は以前『生命40億年全史』(2003年草思社)を興味深く読んだことがあるので氏の著作には関心があった。大英自然史博物館は1996年2月に3日間終日、館内を歩いたことがあるので展示物に思い当たることもあるので面白かった。それより、博物館内ではキュレータたちの確執や世間離れした専門馬鹿の様子がユーモア溢れる筆調で描かれているのが興味深かった。

筆者の周りの生物研究に取り組む人にはリチャード・フォーティ氏が同書で書いているような人物が垣間見える。ファーブル昆虫記については色々な評価がある。・昆虫学者からは正当な評価がされていない・学者からはやさしすぎる・私感が入りすぎている・論文は無味乾燥な方が学術的に優れている……などの見方があるが虫好きには面白い古典である。

引用文献

- 相坂耕作・赤松の郷昆虫文化館. 2009. ジャコウアゲハ(お菊虫)と播州皿屋敷の民俗文化誌, 122pp. 姫路城下町街づくり協議会, 姫路.
- 遠藤和子. 1982. 物語・佐々成政, 437pp. 北日本新聞社, 富山.
- 遠藤和子. 2010. 佐々成政, 372pp. 学陽書房, 東京. (引用部p.344)
- ファーブル, ジャン-アンリ. 1931. 昆虫記 第12分冊, 239pp. + 8図版. 岩波書店, 東京.
- 広瀬誠. 1996. 佐々成政物語—絵本太閤記より—, 124pp. 桂書房, 富山.
- 今井彰. 2008. 一蝶百楽, 96pp. ほおずき書籍, 長野.
- 小西正泰. 1977. 虫の文化誌, 275pp. 朝日新聞社, 東京.
- 大野豊. 1988. 早百合姫伝説とヒオドシチョウ. 富山県動物生態研究会編. 富山の動物—深海から高山まで—植木忠夫先生米寿記念誌, pp.62-65. 富山県動物生態研究会, 富山.
- リチャード・フォーティ. 2011. 乾燥標本収蔵1号室 大英自然史博物館迷宮への招待, 496pp. NHK出版, 東京.